教育懇談会

～PTA協議会と教育委員会が活発に意見交換をしました。～

平成28年1月22日（金）、北九州市PTA協議会と北九州市教育委員会との教育懇談会が、ステーションホテル小倉で行われました。

市教育委員会事務局からは、教育長をはじめ各部課長、またオブザーバーとして教育委員長と教育委員の皆様が、市P協からは、曽我部会長をはじめとする役員・理事20名が出席しました。

以下、懇談会の要旨を抜粋して掲載します。

懇談会の要旨

学力の向上について

平成27年度全国学力・学習状況調査報告書を元に調査結果についてお話していただきました。

小・中学校とも、理科を含めて5つのカテゴリーがありますが、残念ながら全てのカテゴリーにおいて、全国平均を下回っているとのこと。しかし、小・中学校とも、昨年度と比べると多くの教科・区分で改善が見えています。全国平均正答率を上回る学校数が多くなっています。

中学校においては、下位層の底上げが進んでいますという成果が報告されました。食生活や生活リズム、メディアへの接触など家庭の教育力が学力に影響を与えており、ケータイ・スマホの問題や家庭学習習慣の確立など、家庭との連携によって学力を上げていく事が大切であるとのことでした。

市P協から、教育委員会が力を入れているキーワード、「あいさつ」・「読書」・「元気」・「スクールヘルパー」をもっと皆さんに周知していきましょう。学校・家庭・地域の連携を深めていくために、市P協も教育委員会と協力していくことをお約束しました。

読書活動の推進について

平成27年7月に「北九州市子ども読書活動推進条例」が公布・施行されました。子どもの読書に特化する条例は、全国的にも例がないとのこと、条文について説明を詳しくしていただくと共に、3つの基本方針、4つの視点についてもお話していただきました。

子どもが本に触れる、図書館に足を運ぶことが大切です。学校図書館の常時開館が望ましい、専任の司書がいれば一番良いのですが、いない場合は、PTAが中心になりブックヘルパーさんと連携をして取り組んでいけたらいいなという意見が出されました。市P協も、これから「1日1回図書館へ行こう」という運動をしたいと思っています。

児童・生徒をネットに氾濫する危険から守る手立てについて

小・中学生のケータイ・スマホの所持率が上がってきていること、インターネットによる書き込みやLINEによる仲間外し等問題事象が起こっているという報告がありました。教育委員会としてもネット上の巡回・監視、授業における情報モラル教育の実施、県警とも連携した取組等、子ども達を氾濫する危険から守る手立てを詳しく説明していただきました。

市P協としても「ケータイ・スマホ夜10時電源OFF運動」や「子どもを守るネットモラル10カ条」の普及等に取り組んでいること、「北九州市児童・生徒のインターネット利用におけるガイドライン」も作成したこと、これからそれらをどのようにして浸透させていくかが大きな課題になっており、教育委員会と連携して取り組んでいきたいと考えています。

不審者から児童・生徒を守る防犯対策について

小学校4年生で、社会科の授業で地域安全マップを作っていること、学校危機管理マニュアルに基づいた職員研修、緊急連絡網「いっせいくん」メールの取組み等、児童・生徒を守る防犯対策についてお話をいただきました。

学校の先生方や地域の方々のご協力で、子ども達の安全が守られていることは、保護者として安心するという感想がありました。

特別支援学校の整備計画について

現在進行中の東部地区の特別支援学校の整備について、整備に至ったいきさつや新設される学校の特徴をお話いただきました。複数障害種に対応できる特別支援学校として、門司総合特別支援学校と小倉総合特別支援学校が設立されること、これからの西部地区の特別支援学校の整備を含め、全市的な特別支援学校の整備についても説明をしていただきました。

土曜日授業の実施状況と今後の見通しについて

土曜日授業は、保護者や地域住民に開かれた学校づくりを推進するという観点で取り組まれています。小・中学校において、校長会と協議をしながら、土曜日授業が行われているとのこと。保護者や地域住民等の外部人材の協力を経て実施する授業、総合的な学習の時間の体験的な活動、校外学習等、各学校の実情に応じた特色ある取組が行われているとのことでした。今後も、校長会と協議、協力をしながら実施をしていくとのことです。

平成27年度 第2回 会長・副会長・役員研修会

平成28年2月14日（日）にホテルクラウンパレス小倉にて、第2回会長・副会長・役員研修会が開催されました。インフルエンザが流行しています。体調不良等で当日キャンセルされた方もいましたが、小学校85名、中学校66名、特別支援学校1名の計152名、多くの方の参加がありました。

今回は、テーマについて話を深めるワールドカフェ方式のワークショップだけでなく、マグネットテーブルも取り入れてみました。マグネットテーブルとは、話したいテーマを自分たちで掲げて、そのテーマを見て集まり、意見を出し合うワークショップです。

1部のワールドカフェでは、子ども達がワクワク楽しめ、笑顔でいられる学校とは何か、そんな活気のある学校のPTAはどのようなチームなのか?最高なチームになったらどんな事をやってみたいか?参加したみんなで意見を出し合いました!

2部のマグネット方式のワークショップでは、「役員選考について」「楽しいイベントがしたい」「楽しいPTA活動について」「放課後の居場所づくり」など、多くのテーマが出され1部よりも盛り上がって意見交換がされていました。

参加者アンケートでは、「初めて参加しましたが、同じ悩みがあり、意見交換ができて良かった」「自分の知りたいことを聞ける場になりました」「他の学校のやり方や対応の方法を学べました」「まったくPTAのことを知らない人にはもう少しオープンで優しい内容がいい」など様々なご意見を頂きました。PTA協議会といたしましては、このご意見を参考に今後の研修に役立てていきたいと思います。

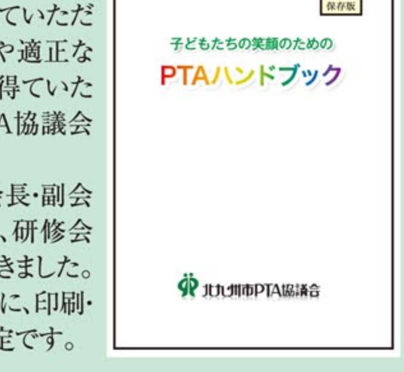
PTAハンドブックの紹介

皆さんの学校のPTA活動はいかがですか?

PTA活動は、楽しいですか?参加してよかったなと感じたことはありますか?

単位PTA活動活性化のためにPTA活動の魅力と意義を、広く皆さんに伝えていきたい。PTAって何ですか?PTAは、どうして必要なのでしょう?本冊子は、単位PTAの特に役員さんに、PTAの目的や活動の進め方を理解していただき、今後の進むべき方向や適正な組織の運営の手がかりを得ていただくために、北九州市PTA協議会で作成しました。

平成27年度の第2回会長・副会長・役員研修会で配布し、研修会で活発に議論していただきました。新年度になったら、各学校に、印刷・製本して3部ずつ配布予定です。



〈教育委員会からのお知らせ〉

新・北九州市子ども読書プラン

平成27年6月定例市議会において、議員から提出された「北九州市子ども読書活動推進条例」が全会派賛成で可決され、7月3日に公布・施行されました。本市のように、子どもに特化した読書活動を推進する条例の制定は、全国でも初めてではないかと言われています。

子ども時代の読書活動は、子どもが充実した人生を送るために必要となる考える力、感じる力、想像する力、表現する力等を身に付ける上で極めて重要です。子ども時代は、非常に短く貴重であることから、そのかけがえのない時期を大切にし、全ての子どもが楽しく自主的に読書に親しむことのできる環境を、私たち市民は整備する必要があります。

条例では、市の責務や市民の役割のほか、「子ども読書活動推進会議」の設置、「子ども読書活動推進計画」の策定、子どもの読書活動の推進拠点となる「子ども図書館」の設置、「学校図書館の蔵書の充実及び学校司書の配置や能力向上」などが定められています。

そこでこの条例に基づき、第3次の子ども読書活動推進計画として、「新・北九州市子ども読書プラン」（平成28年度～32年度）を策定しました。

「新・北九州市子ども読書プラン」では、基本目標として「豊かな心と生きる力をはぐくむ読書環境の充実と子どもが楽しく自主的に本を手に取る読書習慣の形成」を掲げ、これまでの5施策27事業の取組みに、「子育て関連施設における読書活動推進」や「主体的に読書に関わる子どもの育成、支援」などを加え、7施策36事業に取り組みます。

この中で、重点的に取り組む主なものは、

①「学校図書館の充実」

子どもに、自分の住んでいるまちに対して「誇り」や「愛着」をもち、自らもこのまちを形成している一人であるという認識をもつとともに、自分たちのまちづくりに自発的に関わりたいという意識（本市では「シビックプライド」と言います）をもってもらうために、学校図書館に良質の図書や郷土資料を充実させます。また、学校図書館の常時開館や、学校図書館職員の配置拡充を行います。

②「子ども読書会議の開催」

子ども自身が読書について考え行動を起こすための話し合いの場をつくり、子どものアイデアによる読書イベントや啓発活動など、子どもの主体的な読書活動の推進を図るための「子ども読書会議」を開催します。

③「子ども図書館の整備」

子どもの読書活動の推進拠点として、また子ども向け専門図書館として、良質な資料を豊富に収集・提供し、市立図書館による児童サービスの統括機能、学校図書館支援センター機能、関係機関との連携の推進など、様々な支援を行う「子ども図書館」を整備します。

このプランの概要については、別途学校等を通じてご家庭にリーフレットを配布します。

また、出前講演等も行いますので、新年度の家庭教育学級において、子どもの読書を題材にした講座の企画など、読書を楽しいと感じ、積極的に読書活動を行う子どもを増やすためにPTAの皆さまのご協力をよろしくお願いします。

北九州市生涯学習推進計画《〝学びの環〟推進プラン》

北九州市では、今後5年間（平成28年度～32年度）の生涯学習の方向性を示す「北九州市生涯学習推進計画《〝学びの環〟推進プラン》」を策定しました。

本計画では、市民を中心に、自治会、まちづくり協議会、NPO・ボランティア団体、社会教育関係団体、学校、民間教育事業者等地域の様々な団体、行政がそれぞれの強みを活かしながら、共に支え合い、高め合うネットワークが形成され、地域の活力が高まった生涯学習社会を目指すこととしています。また、

①多様な主体が協働するネットワークの「環」

②〝学び〟と〝活動〟が循環するサイクルの「環」

③子どもが成長し地域社会を担う世代循環の「環」

の3つの「環」をテーマに、市民一人ひとりの自己実現や「まちづくり」につながる自主的・主体的な循環型の学習活動を支援する取組みを進めます。

本計画は、4月以降各区の市民センターや生涯学習（総合）センター、生涯学習情報提供サイト「まなびネットひまわり」（市HP）でもご覧いただけます。さらに、PTAの皆さまに本計画への理解を深めてもらうため、出前講演を実施しています。皆さまの積極的なご利用をお待ちしています。

〈問い合わせ先〉
教育委員会生涯学習課
093・582・2385

天籟寺小学校「絆」体操服の紹介

～子どもと先生、保護者の絆を深めよう!～

天籟寺小学校　父母教師会会長　市丸　忠直
校長　清末　孝宜

「子どもどうしの絆を深めたい」
「子どもと先生の和も大切にしたい」
「学校が一つに・・」

平成二十四年度天籟寺小学校では、校長（現：二島小校長宮原雅則先生）と市丸父母教師会会長がこのようなやり取りをしていた。

すると、市丸会長から「絆」の文字が入った体操服を作ってみようと提案があった。PTAで学校独自の体操服をつくろうと発案したのである。「絆」とは、学校名の「TENRAIJI（てんらいじ）」を変形文字にした絆のロゴである。このロゴを入れた体操服を子どもたち全員が着用することで、学校全体の一体感と学校への愛着心が育まれると考えたのである。この発案に宮原校長も賛同し、それから「絆」体操服の完成までに二年の月日を費やした。

まず、体操服の選定である。生地、デザイン、色、業者、価格など様々な問題があった。一つ一つの問題をPTA役員と学校職員で話し合い、検討していった。そして、昨年九月にようやく試作品が完成したのである。しかし、洗濯を繰り返して「絆」のロゴが薄くなったり、消えたりしてはいけないと、それから半年間、モニターとして二学級が着用してみた。三月、「絆」体操服は型崩れや色落ちもなくしっかりとしたままだった。やっと完成したのである。

平成二十七年度天籟寺小学校の運動会では、子どもたち全員が「絆」の文字が入った体操服を着用して運動会が行われた。教師は、「和」（同じくTENRAIJIの変形文字）シャツを着用した。子どもたちは笑顔で体操服を着ている。この二年間の体操服の作成を通して、保護者と教師の絆も深まったと感じる。今後も子どもと子ども、子どもと教師の絆を深めて、天籟寺小をもっともっと発展させていきたいものである。

（絆、和ロゴ作成者：現中原小教諭　山口清美先生）